

相馬廣明先生の百寿の会を盛大に開催

城西病院の名誉院長で東京医科大学名誉教授の相馬廣明先生の100歳のご長寿を祝う「百寿の会」が5月13日、東京医科大学産科婦人科学教室の主催により、東京・如水会館で盛大に開かれました。会場には、東京医科大学や埼玉医科大学をはじめ、相馬先生を慕う約80の方が集まって、ご長寿を祝いました。

相馬名誉教授は、1922年7月に網走で生まれ、京城帝国大学（ソウル）予科から医学部に進み、終戦を迎えて1946年に九州大学医学部を卒業。ハーバード、ダートマス、サンディエゴ大学などで胎盤の研究を行う一方、毎年ネパールを訪れて産婦人科医学会の創設に尽力するなど、国際医療活動も行ってきました。この数年で英語書籍を含めて4冊の本を出版、現在も週1回、城西病院で婦人科を診察しています。

百寿会では、東京医科大学の西洋孝主任教授が「サンディエゴ大学や動物園などの楽しい本当に勉強になるお話を聞かせていただいた。あと2ヵ月で101歳になられるが、私たちのお手本になる見習うべき姿です」と開式のあいさつ。高山雅臣東京医科大学名誉教授は「59年間、身近なところで学ばせていただいた。肉体的だけでなく、精神的健康がすごい。もっと長生きして私たちを叱咤激励していただきたい」と話しました。

歓談の後、「ゴーシェ病からの誕生」と題して、相馬名誉教授の講演会を開催。自らかかわった、胎盤細胞の中にゴーシェが見つかったそれまでに例のない症例について解説しました。

2023年5月16日

